北海道文教広報

34

January 2017

学校法人 鶴岡学園　北海道文教大学

北海道文教大学大学院　北海道文教大学附属幼稚園
北海道文教大学明清高等学校

「鶴岡記念講堂」竣工

学校法人
鶴岡学園
創立75周年

日本古来の伝統に則る神事によって竣工式は開始されました。平成二十八年十一月二十九日十一時から、鶴岡記念講堂1階多目的室で恵庭市豊栄神社斎主により厳かに式典が執り行われました。思えば平成二十七年七月着工以来十七ヶ月を経て、ここに竣工をみるに至りました。

午後に入りまして、「柿落し」として、本学学生の「YOSAKOIソーランサークル」による演舞と、「吹奏楽部」による演奏がありました。本祭で優秀賞を獲得した「YOSAKOI」の生き生きとした演舞と、真面目に音楽に取り組む真摯な「吹奏楽」の演奏は、参加者の心にストレートに伝わって、感動の共有をもたらしました。

設計者の意図によりますと、記念講堂全体につきましては、昼は学術研究と教育学修のセンターとして活動的に使用され、夜は講堂全体が薄明かりの雪洞のように人々の心を温かく照らすものとなるのです。

「記念大ホール」は学術研究の面で学会等の開催には最適な規模であります。ステージは講演やプレゼンテーションに向きます。2階の移動席を格納すると壁の鏡面も利用できる様々なパフォーマンスの可能性も秘めています。地域の方々にも大いにご利用いただくことになります。鶴と恵庭岳の意匠を凝らした緞帳は、翔ぶが如く舞うが如く学園と地域の連携を象徴しています。

「鶴岡先生史料室」は建学の精神を基本として創立当初の歴史を語る史料によって往時の先人の労苦を偲び新たな気力を奮い立たせるものとなるでしょう。

陽当りのよい多目的室はICT設備も必要に応じて配備され、本来的な意味での多目的室として、学生や地域の人々の学びの場として利用されます。

中小の教室と会議室はゼミや打ち合わせ、またステージのための楽屋として創意的に利用することが可能なスペースです。

また、図書館と連結されて閲覧室や学習室としての機能を果たす空間も用意されています。

竣工式は人の一生にたとえてみれば、「お箸初め」のようなもので、ようやく自分の歯で噛み締めながら自ら成長していく第一歩のようなものです。

ここまでにしてくださった設計や施工を担った方々、学生諸君と保護者の皆様、同窓生の皆様、地域の皆様と学園関係の教職員の皆様、そしてご厚志を寄せてくださった方々に心からお礼を申し上げます。

これからこの記念講堂を舞台としてどんなドラマが繰り広げられることでしょう。可能性は無限です。ここに関わる学生・生徒・園児と保護者の皆様、地域の人々と教職員のエネルギーの総和による夢と希望のドラマが開幕するのです。扉は押し開かれます。未来の光に包まれて出発です。

理事長・学長
鈴木　武夫

リハビリテーション科学研究科

大学院リハビリテーション科学研究科開設に際して

昨年8月末に大学院リハビリテーション科学研究科の設置認可がおり、本年4月よりスタートする運びとなりました。開設に当たり、本研究科について紹介します。

理学療法士や作業療法士が関わるリハビリテーション分野は、今後進められる「地域包括ケアシステム」の構築により、施設から地域への流れが一層加速されることが予想されます。そのため理学療法士や作業療法士には、疾病や障害の基本的理解を深め、失われた機能の回復に対処するだけではなく、機能が失われる前への対応をより一層進め、高齢者を含めすべての人々が健康で安心できる社会を作るための積極的な関わりが期待されています。このことを踏まえ、大学院リハビリテーション科学研究科では、すべての人々が健康で安心できる未来社会を拓くため、リハビリテーションに関する幅広い専門知識と技術の習得によって、リハビリテーション分野において指導的・中核的立場に立てる人材を養成することを目的としています。また、理学療法や作業療法の両分野に共通する学術的深化と、当該分野に関わる研究を推進し、その成果を地域社会に広く還元することも目指しています。これらの目的は鶴岡学園が築いた実学重視の伝統を受け継ぎ、「豊かな人間性」、「健全な社会性」及び「高い専門性」を有する人材を育成するための教育理念を再確認するものになっています。

これらの本研究科設置趣旨に基づき、効率的なリハビリテーションサービスを提供できる人材育成の拠点として発展するために次のような教育・研究上の理念と目的を掲げています。

① 人に深く関わるリハビリテーションに関して今日的な課題の正確な理解、観察力、分析・評価能力及び表現能力と豊かな人間性を持ったリハビリテーションのスペシャリストとしての専門性を高めます。

② チームアプローチによる効率的なリハビリテーションサービスを実現するために、多職種協働を理解し、中核的・指導的役割を担う理学療法士・作業療法士の育成に努めます。

③ 地域や時代のニーズを的確に把握し幅広い視野で柔軟に対応できる、より深化した理学療法士・作業療法士の教育の確立に努めます。

④ 高い専門性を持って地域の住民に疾患・障害の予防に関する意識を啓発し、日常的な健康増進を積極的に支援することで、地域社会との連携を深めるとともに、地域の発展に貢献します。

以上の教育・研究理念に基づき、研究科の目的に沿った大学院生を幅広く受け入れるため、次のアドミッション・ポリシーを策定しています。

① リハビリテーション科学を学ぶ強い意欲を持ち、大学院で学ぶ基礎的学力(リハビリテーションに関する知識・技術、論理的思考力、対人コミュニケーション能力、国語・英語力等)を身につけた人。

② リハビリテーション関連領域の専門職に求められる思いやりの心、豊かな感性と深い見識、責任感・継続性を身につけた人。

③ リハビリテーション関連領域において、中核的・指導的役割を果たす高度の専門職業人として、将来活躍する人。

前述した教育・研究の理念と目的およびアドミッション・ポリシーから理学療法士または作業療法士の資格を有する、もしくは入学までに取得見込みの方を本研究科では入学対象としています。特に臨床現場で働く理学療法士・作業療法士を入学対象として重視し、働きながら学位取得が可能な教育・研究プログラムを用意しています。具体的には、講義・演習などの授業は基本的に夜間・土日に開講し、最大4年の長期履修制度を用意して、臨床現場で働きながらでも学位取得を可能にしていく予定です。こうすることで、理学療法士・作業療法士が臨床現場だけでは解決できないリハビリテーションに関わる課題を本研究科で大学院生として研究し、学位取得後、その成果を臨床現場に還元していくことが可能になると考えています。このような教育・研究の取り組みを通して、本研究科がリハビリテーションや地域医療に貢献する高度な人材育成に寄与することができると期待しています。

こども発達学研究科

子育て教育支援のエキスパート養成の大学院がスタートします！

本年4月、北海道文教大学に念願の大学院こども発達学研究科が開設します。本研究科は、国内の大学院のなかでも、きわめて珍しい「子育て支援」「インクルーシブな保育・教育の実践」をキーワードにした大学院です。ここでは、あくまでも理論と実践の往還から学び、高度の実践力を養成し、子育て、幼児教育、学校教育、特別支援教育の場において貢献できるニュータイプの人材を育成することを目的にしています。

それではここで、こども発達学研究科の3つの特色を紹介しましょう。

①幅広い受験機会の提供：子育て・子どもの発達に関心のある方であれば誰でも受験できるチャンスがあります。まずは、大学の入試広報課に相談しましょう。大学院担当の教員も親身に相談に応じます。

②教育課程編成の考え方と特色：本研究科の教育課程は、基礎的理論的な学習のための科目と理論と実践とを往還する科目としての「実践演習」及び、これらを土台とした「こども発達学特別研究」を特色にしています。まず、縦軸として、研究分野を異にする3名の教員による共同講義「こども発達支援総論」をベースとした、幼児教育、学校教育、特別支援教育に関する科目を幅広く選択履修できる科目群を提供しています。この学習を通して、乳幼児期・学童期を視野においた実践、多様なニーズを持つ子どもたちを視野に入れた「インクルーシブな保育・教育の実践」に役立つ力量を持つ人材を育成します。さらに横軸として、理論と実践の架橋としての「実践演習」を組み入れています。ここでは「発達支援分析評価法実践演習」をベースにして、附設の子育て教育地域支援センター、附属幼稚園、及び研究協力校をフィールドとし、ペンギンメソッドによる子育て支援、保育・授業計画、生徒指導計画等をフィールドの実情にふさわしく作成し、実践によって検証するというサイクルにそった学習活動に取り組みます（図1参照）。特に「発達支援分析評価法実践演習」では、本学の教育開発センター及び子育て教育地域支援センターにおいて文科省の科研費によって研究が進められたクリッカーを活用します（図2参照）。このクリッカーは、東北大学大学院教育情報学研究部がFD研究のため開発した「反応収集提示装置」で、研究授業場面や保育臨床実践場面をビデオ記録したものを、実践のふりかえりで視聴する際、リモコンのボタンを押すことで、目の前の出来事に「良い」、「興味深い」など複数の「しおり」をつけた後にしおりの場面を提示できるシステムです。このクリッカーを活用して、子育て支援活動及び授業場面を録画した映像資料を分析し、その分析結果の可視化資料を活用してアクティブラーニング的な学習の流れを提供し、子育て支援及び授業の振り返りを受講生全員で実施し、討論の場を提供することにより、お互いの気づきを触発し、受講生の行動観察力の育成を図ることを計画しています。

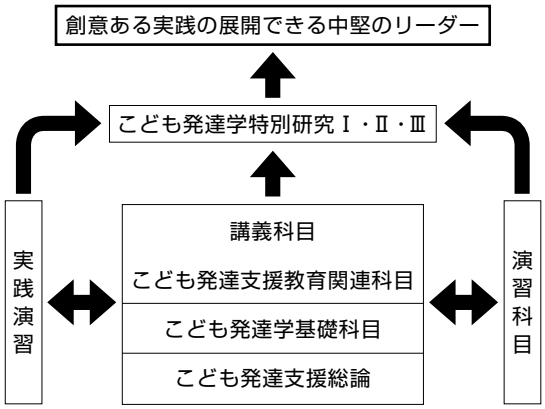

図1.教育課程の構成図

③弾力的に履修できる教育方法：地域支援・子育て支援に精通した人材養成の目標を達成するためには、教育課程の科目編成に加えて、教育方法においても工夫が求められています。そのため、本研究科では長期履修制度の設定、2学期制の導入及び開講時間の工夫をしています。2学期制の導入により、学部の授業とも連動した授業実践が可能となり、現職教員等の社会人院生が学部の授業科目を受講する機会が拡大します。また、本研究科の授業は基本的に平日の夕方以降、及び土曜日の昼間で開講します。ここでは、多様なキャリアを持つ院生が相互に、自分自身の経験を出し合うなかで、お互いの経験を共有できる学習の場を提供します。

図2.クリッカーを活用した教育活動

「実績の文教」

国際言語学科 4年
木村　悟
北嶺高等学校出身
北海道教育委員会（高校英語）内定

編入学が可能なこの大学へ 手厚いサポートにより 教員採用試験に無事合格

高校卒業後、英語教師を目指して札幌の大学に入学しましたが、事情があって中退し、東京で飲食業の仕事に就きました。副店長などを経験し、後輩やアルバイトの子たちが仕事を通して成長する姿を見て、先生への思いが再燃。北海道文教大学は、以前取得した単位を認定してくれることもあって、編入学試験を受けて入学しました。周りの学生はみんな年下ですが、留学経験者をはじめ、英語に対する意識の高い人ばかり。年齢に関係なく、刺激をもらっています。

この大学の「使える英語教育」は、自分の考えを変えてくれました。3年次からのスタートだったので他の学生と比べ、あまり時間がありませんでした。それでも、予備校のプロ講師による学内の対策講座（テキスト代のみ）を利用したり、先生にマンツーマンで指導してもらったりと、大学のサポートにより教員採用試験に合格。アシスタントティーチャーや小学生とふれあうボランティアなど、実践的な体験も役に立ちました。遠回りではありましたが、社会人としての経験は教師の仕事に必ず生きてくるはず。また、勉強から離れたことで、学ぶことの大切さと楽しさを、身をもって体験できました。勉強だけでなく、人間教育を重視した指導ができる教師になることが目標です。

こども発達学科 4年
斉藤　葵
札幌大谷高等学校出身
札幌市 特別支援学校教諭 内定

3つの免許・資格が取れる！ 教員採用試験対策も充実 先生と先輩が強力にサポート

両親がともに小学校の先生で、自分が通う小学校で教鞭を執る姿を見ていたこともあり、いつしか教員を目指すようになりました。この大学を志望したのは、小学校教諭または特別支援学校教諭、幼稚園教諭、保育士から最大3つの免許・資格の取得が可能だから。新設間もない学科だったため、まだ卒業生はいませんでしたが、歴史がない分、自分たちの手でつくりあげるおもしろさを感じたのも決め手になりました。実績がなかったため、先生方も一生懸命で、親身になってサポートしてくれたのが昨日のことのようです。その甲斐あってか、今年度は採用試験を受験した約半数が教員採用試験に合格しました。

ボランティアで養護学校を訪ねた際、一人の子どもとじっくり向き合う指導方法に惹かれ、特別支援学級の先生になることを決めました。教員採用試験を受けるにあたっては、学内の対策講座を受講したほか、先輩たちによる「模擬授業サークル」にも参加。先生を補助するアシスタントティーチャーも経験し、実際に子どもたちとふれあう機会を持ちました。たとえば、先生の指導できなかったことができるようになったとする。それは子どもができるようになっただけでなく、先生もそれに応じた対応ができるようになったということ。そんな風に自分自身も成長していける先生になりたいです。

教員採用試験の結果から

本年度も北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査が6月の1次試験から、8月の2次試験まで実施され、本学の3学科の学生、合計46名が試験に臨みました。結果は、国際言語学科1名(高等学校英語科)、健康栄養学科3名(栄養教諭)、こども発達学科10名(小学校、特別支援学校)の計14名が合格しました。道内公立学校の教員は、世代交代期にあるとは言われていますが、少子化、過疎化が進み学校の統廃合が急速に行われているために教員の採用数は多くはありません。ですから、合格は容易なことではありません。採用試験も工夫されており、筆記試験、論文検査はもちろん、個人面接、集団面接、模擬授業、実技試験などが行われます。準備には、専門知識の習得、表現力・コミュニケーション能力の育成等が必要です。したがって、学生一人一人が周到な準備をすることが求められます。

このような環境の下で、教職を志望する学生の学修の成果を保証するために本学3学科ともに工夫を凝らしています。恵庭市内小中学校への教職体験プログラムであるアシスタント・ティーチャーの実施、模擬授業など実践的な学修機会の実施などです。

学生も志望の実現に向けて真剣に意欲的に学修に取り組んでいます。掲載している写真は、学生が学校現場での教科指導を想定して、指導案を作成し授業をしあい、その指導について批判検討する模擬授業の一場面です。模擬授業の回数を重ねるごとに授業の進め方に慣れてきます。

教職をめざして本学に入学し、教職課程を履修している学生の志望の実現のために授業の一層の工夫と改善に努めていかなければなりません。引き続き、教職課程履修学生への学内の職員の皆様、教員の皆様のご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

(教職課程指導室)

模擬授業の一場面

こども発達学科の就職支援 ー公務員をめざす学生へー

こども発達学科では取得資格を生かした職種へ就職する学生がほとんどです。

なかでも、公務員を希望する学生が年々増えています。

卒業生は公務員保育士として保育園、子ども園、児童相談所、子育て支援センターなどの職場についています。また、小学校教諭、特別支援学級・特別支援学校(障害のある児童生徒を支援)教諭として勤務しています。他に、寄宿舎指導員(特別支援学校に在籍する児童生徒の寄宿舎での生活支援)や学校事務官、教育行政職員、警察官、消防士、刑務官、市役所・町役場職員など多様な職種についています。平成25～27年度に公務員となった者は、卒業生総数(大学院進学等を除く)224名に対して33%で、平成28年度卒業生はさらにそれを上回る内定者が出ています。

公務員採用試験合格のための勉強は難しいものです。大学での学びとは異なるため、合格に向けた対策として学科では独自の講座を設けています。

平成26年度からTAC札幌校の講師を招き、おもに学生の苦手とする数的処理を中心に、社会科学、人文科学、自然科学、文章理解の講座を開いています。

今年度には、2・3年生は週に1講座(通年)、4年生は週に2講座(前期のみ)だけではなく、さらに夏期講習・春期講習も設定しており、学生は1年間に約60講座を受けることができます。さらにTAC札幌校では個別指導として、メールでの相談と札幌校での学習を可能にし、積極的にアドバイスを受けていた現4年生は合格を果たしています。

また、教員採用候補者選考検査の対策として、本学科教員が中心となり、年間を通じて講座を開催していますが、東京アカデミーの講師も数回招いて週に1講座を開いています。その一方で、3・4年生になると自主的に教員に教えを乞う学生も多くなります。

1年生には、公務員志望にかかわらず高校までに学んだ学習内容を復習しつつ、弱点の克服をめざして、進研ゼミのテキストを用いた自主学習の機会を設けています。

これらすべての講座において、学生個人の受講料はかかりません。

もちろん、学科では公務員以外の保育職や一般職を希望する学生への支援も積極的に行っています。学生の夢を実現させるために、さらに支援体制を整えていきます。

≫就職率 [2015年度／全学平均]

全国 第12位※1　道内 第1位

99.6%

「HBU ONE」の取り組みが、ずば抜けた実績に！

2016年5月1日現在
(516名／518名　就職決定者／就職希望者)

※1)東洋経済新聞社「大学就職ランキング」トップ300より。全国の卒業・修了者数441人以上の国公立私立大学が対象。

≫2015年度 国家試験合格実績

道内トップクラス多数

【理学療法士】

83名　受験者90名

全国 第5位　道内 第1位

道内新卒合格者の4.7人に1人が本学学生

●合格率

本学	92.2%
全国平均	82.0%

【作業療法士】

38名　受験者38名

全国 第22位　道内 第1位

道内新卒合格者の6.4人に1人が本学学生

●合格率

本学	100%
全国平均	94.1%

【管理栄養士】

113名　受験者149名

全国 第10位　道内 第1位

道内新卒合格者の3人に1人が本学学生

●合格率

本学	75.8%
全国平均	44.7%

【看護師】

94名　受験者97名

※全国と道内の順位は、養成課程をもつ4年制大学が対象
※道内新卒合格者は道内養成校が対象

●合格率

本学	96.9%
全国平均	94.9%

【こども発達学科】

小学校教諭一種免許 37名　幼稚園教諭一種免許 92名　特別支援学校教諭一種免許 79名　保育士資格 69名

就職決定者の3人に1人が地方公務員

- 教員採用試験 19名受験
- 一次試験突破 100%
- 二次試験合格・採用 10名 ほか9名も期限付採用
- 採用率 100%達成
- 市・町立保育園 8名
- 国家公務員 1名
- 市役所等公務員 4名
- 合計 32名

就職率 100%
2016年5月1日現在

(株)北ガスジェネックスとの調印の様子

(株)福屋物産との調印の様子

地元企業2社と産学連携協定を締結しました

本学は、昨年8月地域社会との連携活動を推進するため学内に地域連携推進センターを設置しました。

このセンターは、本学が有する研究成果、人的資源等を活用した地域社会や地元企業との連携を推進し、地域社会の形成と発展に寄与することを目的としており、この度、地元企業2社と地域連携協定を締結しました。

調印式は、平成28年11月8日に本学本館1階会議室で行われ、協定先の福屋物産株式会社及び北ガスジェネックス株式会社の代表者等が出席し、それぞれ協定書に署名し地域連携協定を締結しました。

連携協定の概要は次のとおりです。

【福屋物産株式会社】

福屋物産は札幌中央卸売市場などに北海道産の海産物等を卸す会社で、近年の商取引のグローバル化に向けた企画事業への支援、又、北海道文教大学のグローバル教育活動の支援等、相互にグローバル化推進を目的とした企画事業への相互協力と支援を通じて連携を図ることとしている。

【北ガスジェネックス株式会社】

「食」と「エネルギー」を通しての「住まいと暮らし」や「福祉」・「教育」などの共同研究の実施、情報交換の実施・相談など、生活全般に関する交流や、北海道文教大学の実務教育・学生実習などに対する協力、同社が企画する各講習会(料理教室等含む)の実施等に対する協力などを通じて相互交流を図ることとしている。

調印後、各社代表からご挨拶があり、本学鈴木学長からこの調印を契機に、協定各社と北海道文教大学が連携・協力して地域社会の発展に取り組んでいきたい旨挨拶がありました。

左から㈱北ガスジェネックス杉岡社長、本学鈴木学長、㈱福屋物産山口社長

●各学科から News

■理学療法学科

国家試験対策がスタートしました

理学療法学科4年生は春から秋にかけての総合臨床実習を終えて、11月からは理学療法士国家試験に向けての対策時期に入ります。毎朝小テストを実施し、その後はグループで復習します。分からない内容については教員に各自、質問に行くなどして理解度を高めていきます。その他にも理学療法学科教員による国家試験対策セミナーが15回開かれ、模擬試験を実施しながら国家試験へ向けての準備を進めていきます。大学で学んだ基礎医学から理学療法専門分野までの知識に加え、臨床実習で学んだ内容を思い出しながら、理解できるまで諦めずに問題を解く姿勢が見受けられます。また就職活動も同時に行っており、今年も内定者が増えてきています。自分の興味のある理学療法分野、入学時から目標にしていた理学療法士という国家資格をとるために勉学と就職活動ともに頑張っています。この努力が実を結び、新年度からは理学療法士として活躍してくれることを願いながら、学生、教員一丸となり2月末の国家試験まで走り続けます。

■看護学科

看護学科4年生　看護研究発表会

看護学科では、看護活動を効果的に展開するため研究的視点をもち看護の実践知を論理的・体系的にとらえ、看護実践の改善に役立てていくことを目的として看護研究について学んでいます。3年次の看護研究Ⅰの講義では、看護研究についての基本的な知識を学び、4年次には看護研究Ⅱにおいて少人数のグループに分かれ、担当教員とゼミナール形式で興味・関心や疑問に基づき研究課題を明確化し、看護学研究の方法やその意義、看護学への理解を深め、それまでに学んだ知識・技術を用いて研究計画書を作成します。

今年度は、認知症の介護における家族の負担や震災に対する災害意識について、また母性看護学、精神看護学の臨地実習における看護学生の心理的変化等、これまでの看護学生としての4年間での学びから得られた多岐にわたる研究テーマがあげられていました。

各グループの発表後は、研究目的に対する調査対象や分析方法が妥当であるか等、活発な意見交換が行われ、さらに学びを深めていました。発表後はリラックスした表情となり「緊張したがとても多くのことを学ぶことができた」「楽しかった」との声が聞かれました。今回学んだ探究する経験を看護師としての将来に生かしていって欲しいと思います。

学生生活も残りわずかとなりますが、夢に向かって頑張っていきましょう。

■こども発達学科

創成期を経て次の段階へ

こども発達学科は、今春で4回目の卒業生を輩出します。完成年度に入学してきた学生たちです。学科開設以来、徐々に「こども発達学科」の姿が明らかになりつつあります。

卒業後の進路を見ると、約5割が、保育関連、約3割が、教育関連の職に就き、これまでの卒業生全体の3割を超える学生が、北海道、札幌市等公務員に進んでいます。3期生・4期生と、この傾向が強くなってきており、教員採用試験や札幌市の保育職合格者の数に現れています。

教員採用試験では、平成27年度4名、本年度6名の合格者を輩出するなど、この2年間に現役で10名が登録され、また、札幌市の採用試験では、1期生1名、2期生2名、3期生5名、本年度は7名と着実に努力を重ね、成果を得て卒業する学生が増えています。こども発達学科が、真摯に学ぶ『場所』であることの実体が伴いつつあるのです。

また、こども発達学科への社会の要請として、優秀な保育士の輩出があります。幼稚園・保育園等における保育者不足は、危機的状況を呈し、各現場における業務の不安定は常態化しており、国も本腰を入れて改善策に着手しています。国の取り組みの背景にある世界的な「幼児期の教育に対する再考」の動きも見逃せません。社会の安定や繁栄に関わる幼児期の教育の専門家が求められているのです。本学科では、そうした期待に応えるだけでなく、子どもに関わる新たな専門職を創造していきます。

●各学科から News

■健康栄養学科

ある学生さんの就職活動

学生さんに「就職はどうする?」と聞くと、『田舎はいやだけど、道内で探したい。』と異口同音に答える。「道外にも、あなたに適した就職先はあるんじゃないか?」と誘っても、『えーぇ、考えられない。』と乗ってはくれない。私には、とても不思議な現象に映っていた。

ある時、一人の学生さんが研究室を訪ねてきた。『何年か後には、地元近くの病院で管理栄養士として働きたい。そのために卒業後は、最先端の栄養管理や栄養食事指導を行っている病院での勤務を経験したい。』という。北海道に来て初めてのことである。そこで、国公立の病院なら将来、地元の病院への転勤や割愛での異動が可能ではないかと考え、「東京の国立センター病院か都立病院はどうか?」と提案すると、『ぜひ、現状を見てみたい。』ということで、都内のある国立医療研究センターを案内することになった。

国立医療研究センターの栄養管理室長から、栄養管理システムや栄養食事指導の現状について説明を受け、管理栄養士の仕事振りも拝見させていただいた。残念なことに、今年の国立病院の採用試験は終わっているとのことであった。時間外に室長の案内で、都立病院の食事療養業務を受託している会社の事業部長と面談することができた。都立病院も採用試験は終わっていたが、都立病院における食事療養や栄養管理、栄養食事指導について、一緒に働く中で見聞きしてきた、たくさんの事例を通した説明をお聞きする機会を得た。

驚いたことに彼女は、翌日一人で部長が勤務する都立病院を訪れ、病院側と受託側の管理栄養士が行っている仕事の内容などを勉強していた。私からお願いしてあげた訳ではないのに、その意欲と行動力は素晴らしいことだと感心させられた。そして、将来地元の病院の立派な管理栄養士になるためには、まず、入院時食事療養の実務を適切に遂行できる能力が必要と自覚し、お世話下さった事業部長の会社の採用試験を受けた。

「内定通知が届きました。」と報告があったことは、言うまでもない。

■作業療法学科

学外実習 事前・事後学習で学生をサポート

作業療法学科では、例年、学外での臨床実習に行く前に学内での実技試験を実施しています。この実技試験は客観的臨床能力試験(OSCE)といわれ、脳血管障害による片麻痺の患者さんや、運動器障害である肩関節周囲炎の患者さんを模擬的に演じる模擬患者を用いて、学内の講義や演習で学んだ知識や技術を学外実習に行って実際の臨床場面でも実施することができるのかということを試験するものです。このOSCEは3年生で実施する3週間の評価実習前や、4年生で実施する8週間の総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの前に実施しています。学生同士で患者役とセラピスト役に分かれ、試験に向けて練習を積み重ねている姿が見られました。当日の試験では、緊張しながらも学生の皆さんは一生懸命に模擬患者に実技を実施していました。

1年生の後期には、2月末から3月にかけて1週間ほど見学実習があります。見学実習では現場で働く作業療法士の実際の仕事を見学し、医療の中における作業療法の役割を理解してきます。また、医療現場における適切な態度やコミュニケーションのあり方を習得することが目的となります。昨年度より始まった新たな取り組みとして、見学実習の事後指導セミナーにて、実習中にコミュニケーションに困難を感じた経験について、学生自身で作成したシナリオを演じてもらいました。「プレイバックシアター」を応用したものです。劇として演技して再現し臨床実習の経験を互いに客観視することで自己表現を学ぶ効果があがると考えています。患者さんとの会話がかみ合わなかった、「邪魔だ」と怒鳴られた、贈り物をくれようとした、など、各グループ様々な場面を再現してくれました。また、臨床教育者とのコミュニケーションも取り上げられ、それぞれのケースについて学生・教員によるディスカッションが行われました。

●各学科から News

■国際言語学科

新カリキュラム、がんばってます！

新カリキュラムがスタートして8ヶ月が過ぎました。最初の1週間は、容赦なく浴びせかけられる英語のシャワーに目を白黒させ、慣れないパソコン操作に戸惑っていた新課程の1年生たちでしたが、必死で最初の数週間を乗り切ったあとはぐんぐんと成長をしています。今ではwordで作成したレポートを提出するのも、skypeでnative speakerの先生とのレッスンを行うのも、power pointを駆使したプレゼンテーションを作成するのも何の問題もなくこなせるようになりました。後期の授業では前期よりもさらにハードになって学生が主体的に取り組むタイプの講義が多くあります。阿寒湖温泉へのフィールドワークを含む「北海道の観光Ⅱ」では、外国人観光客を迎えるに当たって北海道の観光が直面している問題を探り、その解決策を提案するという課題の元、グループごとに現場で使っていただけるフレーズ集やトレーニング用の教材を開発しています。「世界遺産Ⅱ」の講義ではTED Talkのスタイルを学びつつ、日本各地の世界遺産を外国人観光客にアピールするための魅力的なプレゼンテーションを練り上げているところです。

また、今年度は多くの学生が留学を経験してきました。新たに始まったカンボジアのプログラムでは世界遺産アンコールワットのゲートシティであるシェムリアップに滞在して観光業に関わるインターンシップを行ったり、首都プノンペンでのビジネスミッションリサーチを行ったりするなど、さまざまな経験を積むことができました。学生たちの成長も著しく、カンボジアの地雷撤去の活動家を日本に招いて講演会をするための基金集めのプロジェクトをはじめるなど、主体的な取り組みも生まれてきています。この3月には新たにカナダに5名、オーストラリアに3名が留学予定で、10名がカナダや中国で長期の研修中です。

学内にいながらにして留学気分を味わえるのがGCCです。これは2号館の2階に設置された日本語禁止のラウンジですが、今年度からみえたSarah Richmond先生と三ツ木先生というフレッシュな先生方がよく来てくださることもあり、ずいぶんと活気が出てきました。毎週水曜日のESSでの英語のおしゃべりに加え、木曜日は4年生が1年生のライティングをサポートするライティングクリニックなども始まりました。毎月第一金曜日にはGlobal Caféと題した留学促進プログラムを行い、先輩たちの留学報告のプレゼンテーションや専門の業者さんによる相談会を行っています。先日行われた中国人留学生と中国語を学んでいる日本人留学生の合同ワークショップも大盛況でした。日々進化し続ける国際言語学科をこれからも応援してください！

●併設園から News

NEWS ■附属幼稚園

成長の実感!!感動をありがとう!! —附属幼稚園の発表会—

附属幼稚園では、保育の充実期の2学期に発表会を行っています。小学校では、「学習発表会」ですが、幼稚園・保育園では「生活発表会」と呼ばれることが多い行事です。附属幼稚園では、近年、縦割り(3・4・5歳児混合)クラスによる劇遊びを行うことにしています。昨年は、11月19日土曜日に行われました。とてもたくさんのご家族の皆様にお出でいただく中でおこなわれ、一人ひとりの子どもたちの気持ちがとても素直に表れている素晴らしい会になりました。ご参加の皆様の暖かなご声援が、子どもたちに力を与えてくれました。また、この日を迎えるに当たりご家庭での励ましも多くあったと聞いています。

今年の3クラスの劇遊びは、それぞれ個性が際立つものながら、どれもみな、子どもたち一人ひとりが作りあげた劇遊びなのだ、ということが良くわかるものでした。面白かったねー!!劇遊び後の控室でのキラキラと輝く子どもたちの目・表情。年長さん(5歳児)のリーダーシップ。年中さん(4歳児)の協力する姿。年少さん(3歳児)の健気なせりふ。しぐさ。どの子もその子なりに、「じぶん」でやろうとしている姿の「表現」なのです。子どもたちと保育者たちが重ねてきた日々の充実がこの日の子どもの姿に現れています。

異年齢保育は増加傾向ですが、劇遊びをこのように3年齢の異年齢縦割り保育の形で行う例は、全国的にも多くはありません。年齢別保育の劇遊びでさえ、どの子も納得して遊びを終えることは難しいといわれます。異年齢でのかかわりが子どもたちの生活に定着し、日々の生活の充実が子どもを育てます。子どもたち一人ひとりが共に生活する力を身に着けて行きます。この力こそが、学齢期以後の教育の基礎なのです。特に近年国際的に見直されている幼児期の教育は、このような認知的な学びと非認知的な学びの融合を意図的に行うところにあるのです。

ファイナルステージ(大通公園西8丁目ステージ会場)にて演舞

第25回YOSAKOIソーラン祭り 優秀賞!!
（YOSAKOIソーランサークル）

本学サークルの活躍を紹介します。今回は「YOSAKOIソーランサークル」です。平成11年に設立された「YOSAKOIソーランサークル」は、現在90名を超える本学では一番大きな団体で、チーム名を「北海道文教大学YOSAKOIソーランサークル～陽燕(ひえん)～」として学内外問わず積極的に活動しています。

昨年6月に開催された第25回YOSAKOIソーラン祭りで、初めてファイナルステージへ出場し、優秀賞を受賞しました。

あたりが暗くなるまで練習を重ね、また、授業の空いている時間に個人練習をしている姿を多く見かけます。さらに、他大学の大学祭(本学大学祭でも演舞していますので、ぜひご覧ください!)など、多くの演舞依頼をいただいています。

こうした日々の活動が演舞に磨きをかけ、今回の優秀賞受賞という結果に結びつけることができました。「YOSAKOIソーランサークル」の皆さん、おめでとうございます。

笑顔あふれる大学祭

毎年10月の3連休に大学祭を開催しています。(今年度は10月7日(金)～9日(日))大学祭では、学生が主体となりたくさんの企画を用意し、来場した学生・保護者・地域の方に楽しんでいただきました。また、大学祭はサークルの日頃の練習の成果を披露する場や、在学生の研究発表・学科紹介の場にもなっています。

さらに、毎年ゲストライブを行っており、今年はお笑い芸人の「ホリ、ロザン、すずらん」が登場し、漫才などで会場をわかせました。

学生たちによる模擬店は、今年度は特に大盛況で長蛇の列ができ、忙しい中でも楽しそうにやっている姿が印象的でした。

大学祭に遊びに来ていただくと、普段とは違う「北海道文教大学」をご覧いただけますので皆様のお越しをお待ちしています!

寒い日はアツアツのポップコーンが良く売れました。

冬季アジア札幌大会HOT・ほっと北海道レシピコンクール最優秀賞受賞!!
～佐藤 和美さん～

2017冬季アジア札幌大会開催100日前記念イベントで管理栄養士や栄養士、調理師を目指す学生を対象にレシピコンクールが行われ、デザート部門で見事、本学健康栄養学科2年生の佐藤和美さんが最優秀賞を受賞しました。

佐藤さんが作った「ほっくり野菜のシャキふわロールケーキ」はタンパク質・ミネラルが豊富で体力維持にぴったりの優しい味わいのロールケーキです。

最優秀賞を受賞した佐藤さんは「大学で学んだことを活かし、何度も試行錯誤して作ったので、選手のみなさんに喜んでいただけると嬉しいです。」と語っていました。

その後、新聞等のメディア報道がセンチュリーロイヤルホテル企画室の方の目にとまり、ホテル内レストランでランチコースのデザートとして提供されることが決まりました。

コース名は、佐藤さんがネーミングした『北海道の味を巡るHOTなランチ』が採用されました。

第25回北海道高等学校女子サッカー選手権優勝 女子サッカー部 2連覇達成！

10月10日(月)、小樽市望洋サッカー場にて、平成28年度第25回北海道高等学校女子サッカー選手権大会兼第24回全日本高等学校女子サッカー選手権大会北海道予選の決勝戦が行なわれ、本校女子サッカー部が大谷室蘭高校を3－1で破り優勝、2連覇しました。昨年度と同じ大谷室蘭高校との決勝でも走り負けることなく戦い、前半終了近くで2得点し、さらに後半に得点を重ね、終了間際に1失点したものの、3－1で勝利しました。これで、高体連と今回の選手権での優勝・全道代表で2冠となりました。12月30日から神戸市で開かれる全国大会では、開催県出場の北須磨高校が初戦、勝ち上がると2回戦は、夏のインターハイでPK戦で敗れた中国代表広島文教女子大附属高校です。

女子サッカー部 一年間積み重ねてきたもの

女子サッカー部　3年　小野寺 珠里

春合宿から新1年生が加わってスタートした新チーム。今年一年間、全道4冠と全国大会で2回以上勝つという目標を立てて、日々の厳しい練習をみんなで支え合いながら乗り越えてきました。

新チームとしては初めての公式戦である5月の北海道リーグでは、勝ち切ることの難しさに直面しましたが、6月のインターハイ北海道予選では勝ち切ることができて、その結果、全国への切符を掴み取りました。しかし、その7月の全国大会では広島文教女子大附にPK戦で負けて初戦敗退となってしまい、悔しい思いをしました。その後も、北海道リーグで2連覇を果たすことができなかったり、皇后杯でも準優勝という結果に終わってしまい、一昨年と昨年のリベンジをすることができず、悔しい思いをたくさんしました。しかし、一人一人が自分を見つめ直して臨んだ高校女子サッカー選手権北海道予選では、チームが一つにまとまり、全員で優勝することができました。全道4冠という目標の一つを達成させることができませんでしたが、全国大会で2回以上勝つという目標を達成させるチャンスはまだこれからです。それが、12月30日から兵庫県で行われる「全日本高校女子サッカー選手権大会」です。このチームでの最後の大会でもあるので、この一年間積み重ねてきた努力や団結力をすべて出し切って、チーム全員で勝ちにいきます。

◎学校公開講座

本校の今年度学校目標の一つが「地域融和」ですが、本校では、従来より地域連携の一環として「学校公開講座」を実施しており、これまでも多くの方々より好評を得ております。今年度も、前期の6月「高齢者パソコン超初級入門教室」、7月「親子でクッキング教室」と「チリモン観察会」を開催し、後期においても、11月に2回目の「親子でクッキング教室」の他に、今回初めての企画として本校の特色の一つであるサッカープログラムを生かした「ファミリーサッカー教室」、12月には「簡単燻製教室」を開催しました。この「ファミリーサッカー教室」は、「親子交流の一つとして、サッカーを楽しみ、普段はなかなかみせられないお父さん・お母さんの格好いい姿を子どもたちに見せてみませんか。当日は、本校サッカー部顧問及び部員の指導で、ボールタッチ、キック、シュート練習、ゲームなどを行ないます。」との案内で行われました。

公開講座「ファミリーサッカー教室」を終えて

2年　サッカープログラム　大谷 琉晏

11月20日に行われた5歳から小学校3年生を対象とした公開講座「ファミリーサッカー教室」で地域の方々に初めてサッカーを教えるということを経験しました。このサッカー教室の開催に当たっては、2年生の男子・女子サッカー部が3週間ほど前から準備をしてきました。

当日は、下は5歳とお母さんのペアから上は小学3年生とお父さんのペアなど、様々な4組の親子が参加してくれました。まずは、指示ゲームやしっぽ取りゲームをして子どもたちの緊張をほぐして、その後、ドリブルやシュートを行いました。そして最後に試合形式のゲームとPK戦を行ってサッカー教室を終了しました。

サッカー体験が初めてという子どももいたので、進行の中で予定していなかったPK戦を行ったり、急遽新しくルールを付け加えるなど、臨機応変に対処しなければならない場面も多く、指導をする上での難しさを体験しました。しかし、その反面、自分たちで考えたメニューを子どもたちや保護者の方々に楽しんでいただけたので、達成感を味わうこともできました。

最初は不安が大きかったのですが、最終的には、来ていただいた方々に笑顔でありがとうと言っていただけたので、とても良かったです。

今回の教室が、子どもたちがスポーツを始めるきっかけとなることの重要さも感じました。次にサッ

カーを教えるときには今回学べたことを活かしていきたいと思いました。

◎藤の沢小学校でのゲストティーチャー交流会

本校のサッカープログラムでは、将来、サッカーにかかる指導者となる際の一助として、藤の沢小学校での体育授業で、1年生から6年生までの児童へ、本校3年生が、ゲストティーチャーとしてボール蹴り(サッカー)の指導を行なっています。小学生の各学年に即した指導を行うもので、サッカー専門授業の指導実践の場ともなっており、また、小学生との交流の場ともなっています。

ゲストティーチャーを体験して

3年 サッカープログラム 八熊 伸和

私たち3年サッカープログラムでは、今年も隣接する藤の沢小学校の児童を対象に、ゲストティーチャー交流会を5回実施しました。今年も小学生の低学年、中学年、高学年のそれぞれに特徴があって、1・2年生の低学年の子どもたちはとても元気があって、私たちも負けないように元気いっぱいで教えました。中学年の3・4年生は、人見知りをする子が多く、私たちから積極的に話しかけ、コミュニケーションを多く取れるよう心がけました。そして高学年の5・6年生では、子どもが自分の考えを持つようになっているので、その意見を練習に反映させながら教えることができました。私も、それぞれの学年に適した接し方ということについて体験することができて良かったです。

また、初めてサッカーをする子どもたちにはサッカーの楽しさを伝えるために、私たち自身がサッカーを楽しくやっている姿を見せたり、ドリブルやシュートのやり方について、詳しく判りやすく説明するよう心がけました。しかし、それでも伝わらない部分があり、他の人に伝えることの難しさを学ぶこともできました。

私は将来、教師を目指しており、サッカーの指導者としては、多くの生徒にサッカーの楽しさを伝えたいと考えているので、ゲストティーチャーを通じて子どもたちとたくさん触れ合うことができ、とても楽しかったです。このような貴重な体験ができて良かったと感じております。

以上の実践の他、サッカープログラム生徒を中心とした男子サッカー部員は、藤野、石山地区に住んでいる独居高齢者方の雪氷で埋もれている家屋、屋根の除雪作業をボランティアで実施しています。また、女子サッカー部の寮生は、お昼のお弁当を作っていただいている高齢ご夫婦の食堂周辺の除雪を行ったりもしています。

●併設校から News

NEWS ■明清高等学校

明清高校独自の学習支援システム 校内予備校としての「明清塾」

明清高校では3年間を見通した適切な進路選択を推進するため、朝学習などの基礎学力の向上に向けた振り返り学習の時間の設定や、キャリア学習の一環としての大学や専門学校等からの外部講師による講義や現場での体験学習を積極的に実施しています。

また家庭学習不足の改善策の一つとして、学校内で学習時間をしっかり確保させる実践として、新コース制の1・2年生については、授業終了後にクラス全員による「放課後学習」を行っています。さらに、進学希望者や遠隔地から通学する生徒の受験勉強時間の確保のため、カリキュラムや学校行事と連携させた校内予備校による講習を1年次から体系的かつ効率的に開講し、志望校合格に向けた体制を整えています。特に3年次では、「明清塾」という名の講習を充実させており、多くの生徒たちが志望校合格を目指して19時半の下校時まで受験勉強に取り組んでいます。

「明清塾」を十二分に活用して　3年　中田　茜

明清高校では進学を希望する3年生の生徒は、校内予備校としての「明清塾」で講習を受けます。

この「明清塾」では、様々な大学の一般入試の過去問やセンター試験の過去問を解いていくのですが、講習担当の先生が熱心に分かりやすく教えてくれます。分からない問題があると個別に先生が解説してくれ、分からなかった部分についての理解を深めることができます。

私は、理数系の科目が特に苦手であったのですが、「明清塾」のお蔭で日に日に苦手意識がなくなっていきました。

私は1年生の時から文教大学への進学を考えていました。そして推薦で受験したいとも考えていたので、とにかく全科目で良い成績を取ること、そして部活動でも頑張りたいと思っていましたので、一般入試に向けた受験勉強については、家に帰ってからだけでの時間では足りない状態でした。しかし、「明清塾」での講習を受けることで一日の中での勉強時間が増え、そして受験勉強に集中することができ、仲間と共に「合格」という同じ目標に向かって、お互いに高めあっていけたので、「明清塾」での講習は私の中で最高の環境となりました。

講習があることで効率よく受験への準備を進めることができ、また私たちのために講習を担当してくださった先生方のためにも合格しようという気持ちも強くなり、毎日、毎日、放課後17時50分までは講習、その後は判らない点について先生に聞くなどの努力を重ねました。その結果、念願の北海道文教大学の人間科学部理学療法科に合格することができました。ちなみに「明清塾」は無料です。

研究室訪問 Vol.3

ArtとScience

理学療法学科教授　田邉　芳恵

今から50年程前にWHOが理学療法を定義した文章の冒頭には「Physical therapy is the art and science of physical treatment…」と書かれています。「Scienceはその通りだけど、Artって？」と思いませんか？Scienceは科学的根拠に基づいた治療を示します。近年では色々な疾患の治療指針の作成に寄与するEvidence based medicineに通じるものです。理学療法士は「この疾患のこの時期にはこんな治療が効果的だ」とか、「この患者さんのこの状態ならこんな動作ができるはずだ」というように科学的根拠に裏打ちされた治療を行っています。それでは本当にScienceだけで理学療法は成り立つでしょうか？理学療法士が対象としているのは機械ではなく「人」なのです。そこには年齢、性別、性格、生活環境など様々な「人」が存在しているので、全て同じ治療で大丈夫なんでしょうか？そこで必要となるのが、対象となる「人」を知り「人」に合わせるArtの部分なのです。これは物語と対話による医療といわれNarrative based medicineと言います。患者との対話と信頼関係を重視し、その疾病の背景や人間関係を理解し治療するというものです。たとえ同じ疾患の患者さんであっても抱えている問題は様々なので、個々に合わせたアプローチが必要になるということです。それでは「ArtとScienceのどちらが大事なの？」と思うかもしれませんが、答えは「どちらも大事」なのです。ArtとScienceは互いに補完し合っていると言えます。更にScienceである基礎知識の上にArtという技術を上手く積上げることで、知識と技術を併せ持った素敵な理学療法士が誕生するのです。

北海道文教大学の理学療法学科には、理学療法士、医師、基礎系の博士を含めて20人の教員が在籍しています。それぞれが専門とする領域は多岐に渡り、学科全体としてArtとScienceの宝庫になっています。新入生の皆さんは医学領域という新しい世界への第一歩を踏み出しますし、在学生の皆さんは教員や学友との交流の中からArtとScienceを体感し吸収して欲しいと思います。これからの学生生活が実りの多い充実したものになると良いですね。

国際言語学科 神谷忠孝教授が北海道文化賞を受賞

外国語学部国際言語学科　神谷忠孝教授が、平成28年度『北海道文化賞』を受賞されました。

『北海道文化賞』は、北海道の芸術、科学、教育その他の文化の向上発達に関しその功績が特に顕著な個人・団体に贈られる賞です。

受賞にあたり、神谷教授は「50年続けてきた北海道文学の研究が認められ、大変嬉しく思う。若い頃から２００種以上ある北海道の同人雑誌(小説)を全て読み、その批評を新聞に15年間載せ続けた。また、北海道文学館の活動に草創期から参加し、理事長を12年間務めてきた。そういった功績が認められ今回の受賞につながったと考えている。特に、北海道文教大学へ入職し、研究を深めつつ北海道文学館理事長としての最後の仕事をすることができたことが大きいと感じており大変感謝している」と喜びの声とともに受賞に至った経緯を語られました。

また、神谷教授は今後の抱負として「北海道出身の作家は全国的に見ても多いが、知名度は低いので、北海道出身作家の知名度を上げることにつながる研究や、文学の歴史が浅い北海道になぜ作家が多いのか理由を解明していきたい」とさらなる研究意欲を燃やしていました。

研究室訪問 Vol.4

学生とともによりよい幼児教育を目指して

こども発達学科教授　小田　進一

こども発達学科の小田進一です。幼児教育・保育・社会福祉分野を受け持っています。大学は社会福祉学科でしたので社会福祉の専門教員として、約20年前に北海道文教短期大学幼児教育学科に赴任しました。附属幼稚園の園長を兼任してから16年になります。来年4月から、大学院こども発達学研究科も担当します。

この間に、これらの専門分野でも大きな変化がありました。保育の関係では、1999年に、資格及び職名の「保母」が、保育士になり、さらに、2003年に児童福祉法に規定される形で、国家資格になりました。又、2006年には、教育基本法に家庭教育や幼児教育についての規定が加わりました。幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものとされ、これを受けた学校教育法により幼稚園の位置づけ等が変わりました。学校とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とするというように、我が国の学校は幼稚園から始まるということが明記されたのです。学校と児童福祉施設(保育所等)で働くことのつながりには、多様な課題が常に付きまといます。国による「認定こども園」による一体化も見通しが立たない現状ですが、他人の育ちに関わる専門職を志向する有為の人材を育てるという、私たちの課題意識はこれらの歴史的経過からも明らかだと感じています。

近年、世界的に幼児教育・保育の再評価がなされるようになりました。OECDの発表など、幼児期への投資による経済効果の向上についての研究等、多様なエビデンスが公開されるようになりました。幼児期の育ちをさらに解明し、保育実践の向上に寄与しようとする学生たちと創造的に研究を進めていくことに大きな希望と期待を抱いています。

明清高等学校と北海道文教大学は高大接続に伴う覚書を交わしました。

両校は、高等教育、大学教育、大学入学者選抜について相互に理解を深め、新時代にふさわしい高大接続の実現に向け、お互いに一貫した取り組みが必要である事から、定期的且つ必要に応じ実務者の情報・意見交換を行い、実質的課題に積極的に取り組むことで合意し、平成28年7月28日明清高等学校において能代校長と鈴木学長が覚書を交わしました。

入試の検証、分析を専門に行うアドミッション・センターを発足しました。

入学試験選抜体制をより充実・強化し、且つ入学試験全体の検証・分析を専門的に行う機関としてアドミッション・センターを発足し、高大接続も視野に入れた新たな入学選抜方法や成績評価等について多面的・総合的に取り組む体制が整った。センターの構成員は、センター長、センター室長、学部教員2名、大学院教員1名、入試広報部長、系列高等学校長で構成され入学試験全般の検証及び分析の専門的業務を行うこととなりました。

■入試日程

入試区分	出願期間	試験日	合格発表	手続締切
一般入試（Ⅱ期）	2/13(月)～2/27(月)	3/3(金)	3/9(木)	3/17(金)
一般入試（Ⅲ期）	3/6(月)～3/16(木)	3/21(火)	3/22(水)	3/24(金)
センター利用入試（後期）	2/20(月)～3/2(木)	個別試験は課さない	3/9(木)	3/17(金)
特待生入試（C日程）				

※一般入試（Ⅲ期）の実施学科は、国際言語学科、こども発達学科のみ
※特待生入試（C日程）の実施学科は、理学療法学科、作業療法学科、看護学科のみ
※特別入試（後期）、編入学（後期）については、「学生募集要項 2017」にてご確認ください。

AO入試―後期―〔国際言語学科〕

コード	エントリー締切	面談日	出願許可	出願締切	合格発表	手続締切
I	2/2(木)	2/8(水)	2/10(金)	2/13(月)～2/15(水)	2/17(金)	3/3(金)
J	2/8(水)	2/15(水)	2/17(金)	2/20(月)～2/22(水)	2/24(金)	3/17(金)
K	2/22(水)	2/22(水)	2/24(金)	2/27(月)～3/1(水)	3/3(金)	3/24(金)
L	3/2(木)	3/8(水)	3/10(金)	3/13(月)～3/15(水)	3/17(金)	3/24(金)

【面談時間】①14:00～14:30(30分) ②14:40～15:10(30分) ③15:20～15:50(30分)のうち、希望の時間帯。
【出願資格】国際言語学科：国語または英語の3年間の評定平均値が3.3以上の者。
またはエントリーシートに英文による自己紹介を記入した者。(詳細は「学生募集要項2017」参照)

入試のポイント！！

POINT ❶
一般入試とセンター試験利用入試は“併願”が可能。
しかも、志願書を同時に出す場合、同封する「調査書」は1部で結構です。

POINT ❷
特待生入試で合格すると、4年間授業料が半額に減免されます。
(但し、毎年度再審査あり)

POINT ❸
第2志望まで出願が可能(一般入試、センター試験利用入試)。

第1志望学科	第2志望学科
理学療法学科	作業療法学科、看護学科、健康栄養学科、こども発達学科、国際言語学科
作業療法学科・看護学科	健康栄養学科、こども発達学科、国際言語学科
健康栄養学科・こども発達学科	国際言語学科

●再試験はありません。第1志望学科の得点で、選抜されます。
●第2志望の受験料は“無料”です。 ●志願書の指定欄にチェックするだけで出願できます。

■春のオープンキャンパスのご案内

Open Campus in Spring

高校1、2年生の皆さん、
いち早く“大学生”を体験しませんか？
保護者の方も是非ご一緒にご参加ください！

3.25 土 10:00～14:30

特典 参加高校生にはもれなく「図書カード」「大学オリジナルグッズ」「大学案内パンフレット」プレゼント

内容(予定)
■学科紹介 ■体験講義 ■先生や先輩とフリートーク
■学食体験 ■キャンパスツアー ■入試個別相談コーナー 他

●体験講義テーマ(予定)

学科	テーマ
国際言語学科	Blast Off! バリバリ学んでバリバリ伸ばす！ ～大学生レベルにチャレンジ～
健康栄養学科	・栄養素の摂取量 多くてもいけない 少なくてもいけない
理学療法学科	・体を動かして、自分の心と体の変化を調べてみよう
作業療法学科	・講義：作業療法士に必要な上肢の解剖学
	・先輩による実習体験「上肢の骨格筋を学んで、触ってみよう！」
	・先輩による実習体験「メンタル系の作業療法評価って何？」
看護学科	・ウィルス感染症
	・妊婦体験
	・実践シリーズ2！！ 風船バレー
こども発達学科	・こどもの言葉の秘密！！
	・大学の音楽の授業って！？

〒061-1449 恵庭市黄金中央5丁目196番地1
TEL (0123) 34-0019 FAX (0123) 34-0057
http://www.do-bunkyodai.ac.jp
E-mail:soumu@do-bunkyodai.ac.jp